

平成 24 年度

事業所名 : グループホーム 笹の木

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392400040		
法人名	医療法人社団真心会		
事業所名	グループホーム笹の木		
所在地	岩手県和賀郡西和賀町湯本30-74-8		
自己評価作成日	平成 25 年 2 月 12 日	評価結果市町村受理日	平成25年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0392400040-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02">http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0392400040-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 25年 2月 26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所より5年が経過し、利用者様の年齢も高くなって重度化して来ていますが、病状変化による退所希望は無くなんと行っても90代の高齢者が多く最高齢で99歳の利用者が居ることで職員一人一人が誇りを持ってサービスを行っています。若い職員が研修、資格取得に意欲的に取り組んでおり、自主的に研究に取り組んだりミーティングを行っています。また、母体法人が医院ということもあり、利用者様の体調変化などには常勤の看護師と連携を取り専門職に繋げて必要に応じて受診を行うなど柔軟な対応をしています。利用者様には、一人一人の生きて行く喜びや思いを見極めて仏参り、ミニ旅行、町内で行われる舞台鑑賞、多施設で行われる盆踊りなどに積極的に参加して地域との交流を深めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム笹の木は、国道107号線から湯本温泉入口の住宅地の中にある。木造2階建ての当事業所は、医療法人が経営主体であり、医療と介護サービスの連携が整備されている事が特徴であり、かかりつけ医は毎日観察訪問し、利用者へ声掛けと安心を提供している。また、利用者・家族にとって重度化や終末期の安心が提供されている。住環境としては自然豊かで季節感をはっきりと感じる事が出来、居間からは折々の風情を楽しめるなど心豊かに穏やかな日々を送る事のできる場所に立地している。近くには商店街・保育園・特養・スーパーなど、地域との繋がりも確かなものとして事業所が積極的に地域に溶け込み、利用者と共に地域の一員としての関りを持ち、笹の木の理念を活かしながら全職員は地域との連携を更に深めながら利用者と共に歩む事を心掛けている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム 笹の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人サイドからの事業所理念に基づいた介護者レベルの理念を制作し、それを共有して実践に繋げている。	法人の運営方針に沿った理念を実践者研修に参加した職員の発案を基に作成した。ミーティング時に復唱し共有に努めたり、事業所内に掲示し利用者や家族また、地域住民や訪問者に介護の姿勢を明示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域協議会に所属し、祭りの準備や流雪講演組合の会議に参加するなどしてグループホームが地域の一員であることを自覚し、利用者様一人一人についても地域の繋がりを絶たないようにしている。	日常的な地域との繋がりをよく自然体で展開されている。地域協議会に所属し、季節ごと開催される諸行事への参加もボランティア団体の協力により定着しており、事業所主催の夏のビールパーティは、今では地域住民から待たれる行事の一つになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の介護者の集いに参加し、認知症について話したり、在宅の認知症の方の家族から相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年は、駐在所の方や元消防署の所長さん(ボランティアの方)にエスケープ事例や防災、避難訓練についてアドバイスを頂き活かしている。	隔月の開催で選出委員の他に駐在所や元消防署員等形式に拘らず各団体の参加により開催され、開かれた会議となっている。降雪地帯でもあり冬場の火災訓練には専門的な意見を得るなど情報の共有が図られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターよりショート利用についての相談を受けたり、実際ショートを受け入れたりしている。保健福祉調査会に参加したり、町主催の研究会、研修に参加している。また、こちらからの電話相談もしている。	町主催の保健福祉調査会・学校保健会・介護施設連絡会・包括主催の在宅介護の集い等に参加し情報の共有を図っている。管理者が認知症ケア専門士の資格を活かし、介護相談にも協力関係を築きながら取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームや居室の施錠をせず、身体拘束ゼロ宣言をしてそれにとったケアに努めている。	外部研修に参加した時の資料を基に内部研修を行うなど身体拘束ゼロのケアの理解を深めている。言葉による拘束等に付いては例題をプリントで研修し、気付きを促しながら意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内のミーティングで事例を基に虐待防止の勉強会を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中に権利擁護制度を利用されている方がいて、毎月状況報告を行っている。以前に行われた研修からグループホーム内でも研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はご家族に来院して頂く又は、訪問して説明し希望や意見、疑問に答えていつでも対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族の意見を出して頂き反映させている。また、面会やケアプラン作成時に希望、意見、要望を聞いて反映させている。	ほとんどの家族は月に1回以上の訪問があり、その都度意見等を聞く機会としている。請求書送付時には、利用者の生活状況記録を同封し、情報の共有を図っている。行事の事等意見要望が出され運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の法人ミーティングや笹の木ミーティングで意見交換を行っている。 職員の勤務形態や除雪について話会われた。	法人全体の研修会や出張復命会、月1回の笹の木会議等以外に日常的に意見等がある場合には管理者や施設長へ相談できる環境にあり、改善策等内容別に段階的に改善・解決が図られるなど運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士の受験について体制を整えたり、取得について給与に繁栄している。 研修の機会や交流の場を大切にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人の職員の力量や学ぼうとする気持ちに合わせて研修の機会を提示し参加している。 ホーム内の研修は、実例に合わせて研修出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部施設との交換研修を行っている。 包括支援センターでの勉強会も積極的に出席している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事があれば傾聴し、要望にこたえられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との連携を密にし、要望にそえるよう信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用に際し、家族や本人と面談したり他のサービス事業所と連携することで現在必要としている支援と、今後の対応についても相談をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	軽作業等を職員と一緒にやって頂いたり、自ら進んで手伝って下さったりと支えあった生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	要望があればいつでも家族と電話等で会話して頂いたり、面会に来て頂き家族との大切な時間を過ごして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の敬老会や盆踊り、お祭り等積極的に交流している。	向かいの電気屋のお母さんと「おしゃべり仲間」になったり、床屋さん・地元商店をはじめ地域住民・紙芝居・移動ボランティア・ハンドベル・保育所・職員の子供等々多くの人々との関わりを得て、思い出の職場や墓参の他、地域行事参加も含め馴染みの関係を継続しながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人一人に声掛けをし、リビングで思い思いに会話されたり、体操したりして過ごして過ごされたり、利用者様同士で居室に行ったりして会話を楽しまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した方についても訪問したり、会う機会には声を掛け合い関係性を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	故郷訪問や家族との電話、外出、買い物、足湯に出掛けている。静かな環境や好みの話をする等行っている。	利用者本人からは直接的な意見等はないが日常的な会話や行動から利用者の「今逢いたい人」や「話したい人」「今欲しい物」「今飲みたい飲み物」等、個々の意思を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式によって聞き取りを行っている。居室には今まで家庭で使用されていた物を使いやすい場所に置いて使用している。 本人の希望に添ってベットやタンス等を配置する様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	軽作業等利用者様一人一人に応じて出来ること(皿拭き、洗濯、新聞たたみ等)をお願いしている。 本人の希望によって移動の時間等工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	受け持ちが一カ月に一度まとめる総括を基に話し合いを持つ又、家族や本人にも希望を聞いてケアプランを作成し、現状を見極めながら介護している。	毎月のケア会議で気付きを基に利用者全員のケアプランを検討している。全職員で情報を共有し新しい課題の発見や3カ月毎の評価・家族情報も整理しながら介護計画に組入れ作成している。急変時の計画変更時にも職員間連携や家族との話し合い医療連携等手順が整備されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月に一度の法人ミーティングや日中、夜間の申し送りで利用者様一人一人の情報を聞いたり、気になることがあればその都度情報を伝えて業務日誌に記入し次に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の息子様が河北新報錦秋湖マラソン参加し居室に泊って頂いたり、故郷訪問で小旅行を行った。また、沢内甚句の踊りを利用者様に教えて頂き忘年会で共に踊った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町で行われる町民劇場に職員と行って観賞したり、町のチャリティーに参加している。また、職員と足湯へ行き地域の方との交流場ともなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	系列の医院と連携し連絡を取り合いながら情報を共有し、毎週各利用者様に往診に来て頂いている。	利用者全員が母体の医療法人の医師がかかりつけ医で、ほぼ毎日の訪問や随時診療が受けられるよう医療連携が図られている。この他皮膚科、眼科等は町外の受診となり、歯科は訪問で受診となっている。受診時は家族・職員対応となっている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職常勤との協働はもちろんのこと、毎日担当者が病院と個々の利用者様の変化について相談、報告をし適切な受診、看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体医院への入院では、往診時に様子を聞いたり、医院へ行き入院されている利用者様の様子を聞いている。その他の病院とは、メールのやり取りや家族と共に面会し情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全員の家族や本人に終末期への想いを聞きとりしている。 法人との連携で重度化、終末期はチームを組んでいる。	「重度化及び看取りに関する指針」を定めサービス利用開始時に家族説明し同意を得ているが今回初めての看取りケアを実践した。終末期についての本人等の希望はアセスメントの「私のターミナルや死後についての願いや願望」で聞き取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し応急手当や連絡について定期的に確認し実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で行われる消火訓練に職員が参加したり、施設で行う訓練に近隣の方にも参加して頂き昼夜を想定し消防職員立ち会いのもと行っている。	スプリンクラーの設置と事業所オール電化のため月1回の点検を実施。消防署立会いで火災避難訓練を年2回実施、通報・召集訓練も実施している。2階部分が居室で、有事の際の避難誘導に地域の消防団員や隣の電気屋のリフト利用等協力的な意見の活用等具体的な方策を検討している。	有事の際、認知症という利用者考えた場合、2階からの避難誘導には、人の手が多く必要となる事が必須となる。地域力の活用と利用者・職員の想定訓練を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	物が取られた、無くなった等訴える利用者様には本人の人格を尊重し、プライバシーもあるので出来るだけ本人に見つけて頂けるよう言葉掛けや一緒に探すが本人が見つけたように誘導し人格を損ねないようにしている。	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように配慮した言葉遣いに留意した支援を心掛けている。利用者の呼名はさん付とし、さり気ない支援が継続されている。利用者の表情が明るいのが印象的である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	水分補給時にコーヒーを飲みたい、お茶を飲みたい等の希望を受け止めその都度対応している。 どうしたいか考え等を本人の口から聞くように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食時に一旦声を掛けを行うが、本人の希望を大切にし、居室で過ごしたい方へはその様に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と相談し、服を選んで更衣したり出張販売をお願いして本人に好きな服を選んで購入してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に盛り付けや皮むきをお願いしたり、食後の後片付けを手伝って頂いたりして職員と一緒に作業を行っている。	食材の下準備や食後食洗器投入前の食器下洗い等、本人の満足に繋げるような支援が継続されている。栄養補助剤が処方されている利用者には味が画一的にならないよういろいろな味で対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食・副食量を利用者様に合わせて量や形態を変え提供している。 水分の量も一人一人に応じて出来るだけ摂取して頂けるよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で歯磨き出来る方は最初は自分で口腔ケアを行って頂き、その後、職員が磨き残しが無いか確認し、口腔ケアの介助を行っている。また、一週間に一度は歯科の往診があり口腔ケアの指導をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツ等使用している利用者様も必ずトイレ誘導して自然排泄が出来るように支援している。排泄パターンもチェックしてそれに応じて誘導している。	羞恥心への配慮・気配りしつつ、可能な限り自立排泄に向けた支援を徹底している。トイレ誘導はさり気なく周囲に気付かれないよう職員が連携し早めの誘導等支援し自立排泄に改善された例もあり利用者の自信に繋げた支援となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保や、軽度の運動、体操を行っているが、それでも便秘傾向の方には医療に相談して薬を処方して頂いて便秘の予防に対処している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2~3回を目安に入浴して頂いているが、本人の希望に添って対応している。また、利用者様同士と一緒に入りたい方もあり、それに対応している。	入浴時は職員とのコミュニケーションの場としても活かされ、基本週3回の入浴だが希望時対応し、感謝と笑顔が溢れる場となっております、重度の利用者には複数職員による対応で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない利用者様が居たら添い寝したり、手を繋いでいると休まれる。夏は扇風機を使用し風通しを良くし、冬は湯たんぽを使用して暖かくして安心してゆっくり安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療と連携し、薬の変更があれば確認したり医療と相談したりしている。また、母体の医院で行われる薬の勉強会に参加し薬の勉強をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地区の行事などに招待され参加している。利用者様が何か欲しい時には近くのスーパーと一緒に買い物に行っている。教え子の自宅訪問、干柿作り、山菜とり、沢内甚句を歌ったり、踊ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのスーパー等本人の希望があれば職員同行で行っている。他は、町の行事など家族等と連絡を取り外出出来るように支援している。故郷訪問、保育所の行事に参加する等地域の方に協力して頂きながら支援している。	日常の買い物や散歩のほか地域資源との連携のもと外出の支援をしている。雪が溶けたら外出を多く計画し、自然とのふれあいを重視し、冬季行事の雪明かりに参加したり生活が楽しみとなるよう支援している	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額の範囲内で所持して頂き、必要に応じてご家族様から預かっているお金を本人が必要とする時に渡している。(ノートに記帳し管理している。)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が会話したいと思った時に電話を繋いで家族、知人と会話できるよう支援している。家族から携帯電話を渡されそれを使用している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから見える四季折々の季節感を味わえるようになっている。 窓から入って来る光はカーテン等で対応し、夏、冬等は冷暖房機により温度調整している。	オール電化による恒温が保たれ、利用者には快適さが提供されている。居間兼食堂は明るく、卓子の並びも利用者お互いの顔が見えるなどの工夫がされている。利用者は1階の居間にエレベーターで集まり、地域住民やボランティアの訪問を受け賑やかな交流が支援されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にいても自由に居室へ行き来でき、気の合った利用者様同士で会話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される方には出来る範囲内の馴染みのあるタンスや生活用品を持ってきて頂き、希望に添う形で配置して頂く。	居室毎に個性を活かし、使い慣れた筆筒や花好き利用者は大きな花瓶を持って来て花を飾るなど其々に趣が感じられ、利用者納得の居室づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の戸は引き戸になっており、廊下、階段は手すりを設置してあり安全に歩行出来るようになっている。 居室に利用者様の名前がついており、自分が分かるようになっている。		